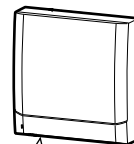


三菱パイプ用ファン（湿度センサー・電気式シャッター付） 居室用

とじピダ

形名によって取扱いが異なりますので予めご使用の形名をご確認ください。V-08PEHLD5の運転にはスイッチが必要です。スイッチの位置を確認してください。



形名表示位置

取付工事説明書

工事店さま用

取付工事終了後は、必ずこの説明書をお客さまにお渡しください。

取付工事を始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を梱包外側の「警告」「注意」で説明しておりますので、この説明書とともによくお読みになり、正しく安全に取付けてください。

- 配線工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品は居室に取付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。
故障の原因になります。
- 直接屋外に排気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材（ウェザーカバーなど）を取付けてください。
- 外風の吹き付けの強い場所では風圧シャッター付深形フードを取付けることをおすすめします。
壁面汚れ、雨水浸入、電気式シャッターのばたつきの原因になります。
- V-08PEHLD5の運転・停止にはシステム部材または市販のコントロールスイッチが必要です。
※コントロールスイッチはP-11SWLを推奨します。
※上記コントロールスイッチをご使用にならない場合は容易に停止されない工夫が必要です。
- V-12PEHD5は塩化ビニル管（厚肉管VP）には取付けできません。

形名	機能	電源仕様	適用パイプ	付属部品
V-08PEHD5	湿度センサー付 電気式シャッター付 （停止タイプ）	速結端子	●塩化ビニル管…VU・VP(φ100mm)	木ネジ…2本
V-12PEHD5			●鋼板管(内径100mm)	
V-08PEHLD5	湿度センサー付 電気式シャッター付 （常時弱運転タイプ）		●塩化ビニル管…VU(φ150mm)	
			●鋼板管(内径150mm)	
			●塩化ビニル管…VU・VP(φ100mm)	
			●鋼板管(内径100mm)	

お願い

- 高温(40℃以上)になるところに取付けしないでください。
(故障の原因になります)
- 塩害、温泉害の発生している場所には取付けしないでください。
- アルミフレキシブルダクトへの取付けはしないでください。
(振動の原因になります)
- システム部材（ウェザーカバーなど）は壁厚にあったものを選んでください。
(壁厚により取付けられないものがあります)
- 天井・壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものを取付けてください。
- 外風の強い日はセンサーが正常に動作しないときがあります。
- 風量の大きな換気扇を動作させるとセンサーが正常に動作しないときがあります。
- 換気扇に直接日光などが当たる場所には取付けしないでください。
(誤動作の原因になります)
- 空調機器の近くには取付けしないでください。
(誤動作の原因になります)
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 電源が入った状態でシャッターを無理に押ししたり、引っ張らないでください。
(シャッター機構破損の原因になります)



安全のために必ず守ること

⇒ 梱包箱を確認ください

外形寸法図

⇒ 梱包箱を確認ください

取付方法

注意

- 湿気が多い場所(浴室、シャワー付洗面台・衣類乾燥機のある洗面所など)、結露する場所には取付けない(感電・故障の原因になります)

1.取付前の準備

壁取付けの場合

壁穴へのパイプの固定

1.取付け場所を決めて穴をあける。

- 壁厚に応じてパイプの長さを決めてください。
- 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に取付けてください。
- 本体左側面にスイッチがありますので、操作性を考慮して左壁面からの距離を十分離すことをおすすめします。

2.壁穴にパイプを確実に固定する。

パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。

- 電源線を室内に引き込んでから(**2.電気工事** 参照)行ってください。
- 固定が不十分だと振動したり異常音が発生する原因になります。
- 壁内への雨水浸入を防止するためパイプは室内壁面まで差し込んでください。

お願い

- パイプは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつけ、固定してください。

天井取付けの場合

野縁工事とダクト配管

1.右図のように野縁工事をし、ダクト配管をする。

お願い

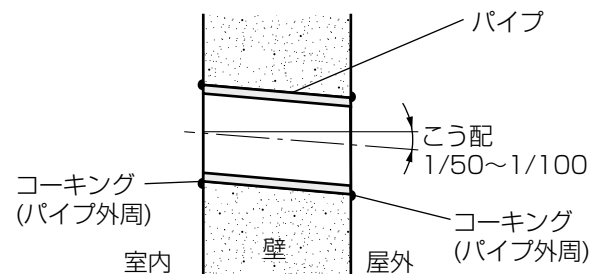
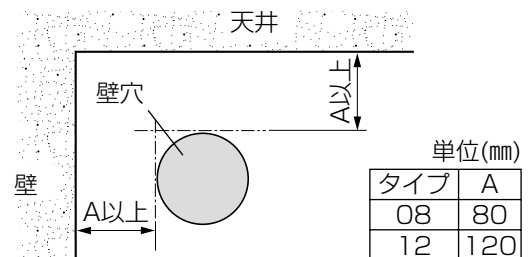
- 補助パイプが壁から右図の位置になるようダクト配管を行ってください。
- 本体左側面にスイッチがありますので、操作性を考慮して左壁面からの距離を十分離すことをおすすめします。

2.ダクトの中心から天井板まで185mm以上離して天井板をはる。

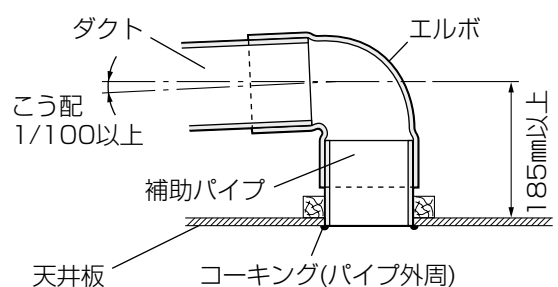
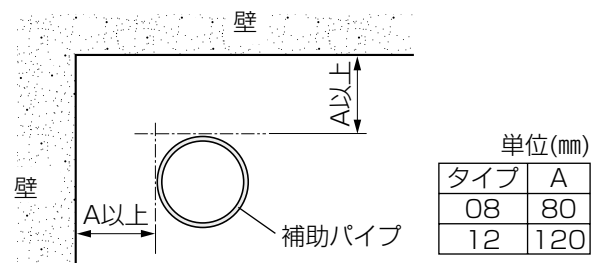
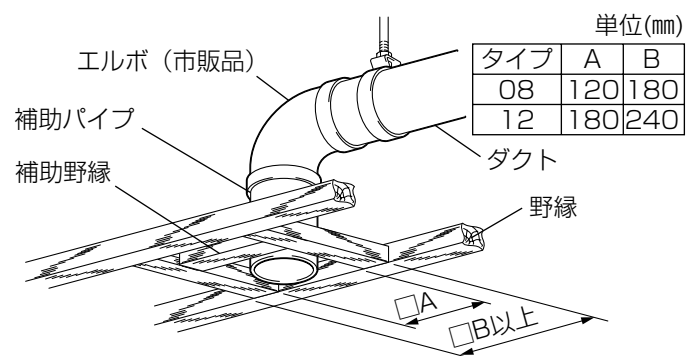
3.エルボと天井板の間は補助パイプを接続する。 パイプと天井のすき間はコーキング処理を施します。

お願い

- ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外側に1/100以上の下りこう配をつけてください。
- 天井板に強度がないときは補強材を入れてください。



※パイプは壁面より室内側に出ないようにしてください



※補助パイプは天井面より室内側に出ないようにしてください。

2.電気工事

警告

- 交流100Vを使用する
(直流や交流200Vを使用すると感電の原因になります)

- 市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを組合わせて結線してください。
- 当社以外の電子式スイッチ(半導体制御による速調スイッチ・タイマー等)をご使用の場合は組合せ上、不具合が発生するおそれがありますのでご使用の際はあらかじめご確認ください。

※既設換気扇と交換の際、電源線引込み穴の位置があわない場合は、製品裏側の空間を通るか電源線を引き出せる位置まで穴を広げてください。穴を広げた場合は、必ず不要となった部分を補修してふさいでください。

1.電源線を右図の位置から室内に引き込む。

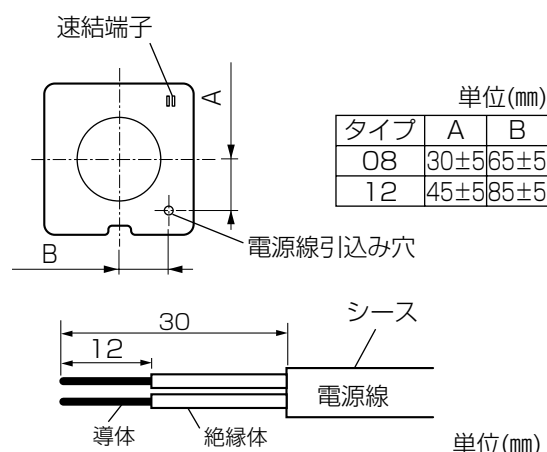
- 電源線はVVFφ1.6、φ2.0 2芯をご使用ください。

2.電源線の先端を右図寸法に合わせて皮むきする。

- 端子部への水・ほこりの浸入を防ぐため皮むき寸法を必ず守ってください。

注意

- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
(接続不良や誤った配線工事は、感電・火災の原因になります)
- 電気工事は電気工事店に依頼する
(感電の原因になります)



3.本体の取付け（壁取付け・天井取付けともに同様の取付けかたです）

※図は12タイプを示す。

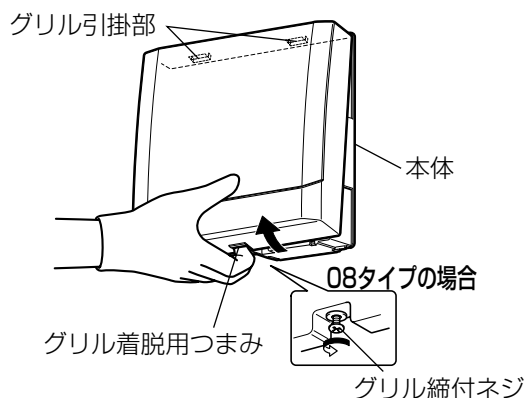
1.本体からグリルをはずす。

08タイプの場合

グリル締付ネジをゆるめてグリルを斜めに持ち上げてはずす。

12タイプの場合

グリル着脱つまみに指をかけ、グリルを斜めに持ち上げて本体上側のグリル引掛部からはずす。



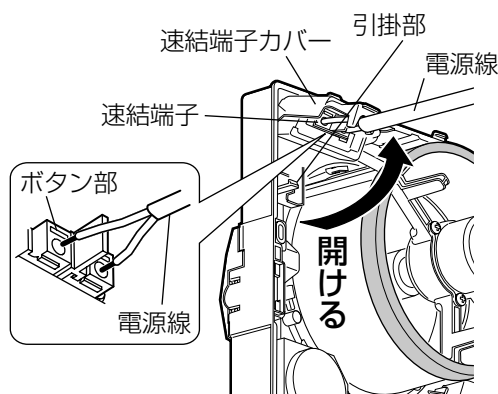
2.結線をする。

- ①本体の引掛部に手を掛け、右図のように開ける。
- ②電源線を速結端子に差し込む。
- ③確実に速結端子カバーを元通り閉じる。

お願い

- 電源線の皮むき部分は確実に速結端子に差し込み、端子より出ないようにしてください。
- 電源線を軽く引っ張って速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源線は本体面に密着させて配線してください。
- 電源線を速結端子よりははずす場合は、ボタン部を押しながら電源線を引き抜いてください。

■電源線接続方法



3.本体の取付け つづき

3.本体を固定する。

本体の上下を確認して本体をパイプに差し込み、付属の木ネジ2本で本体を固定する。

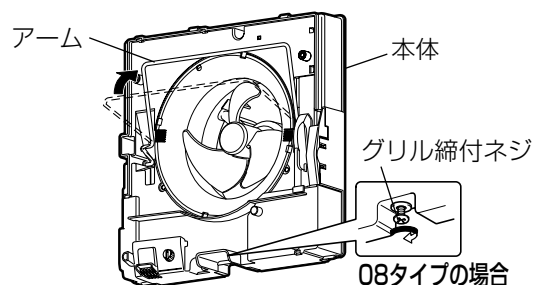
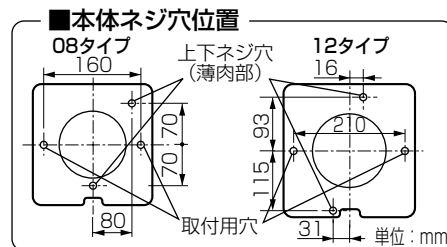
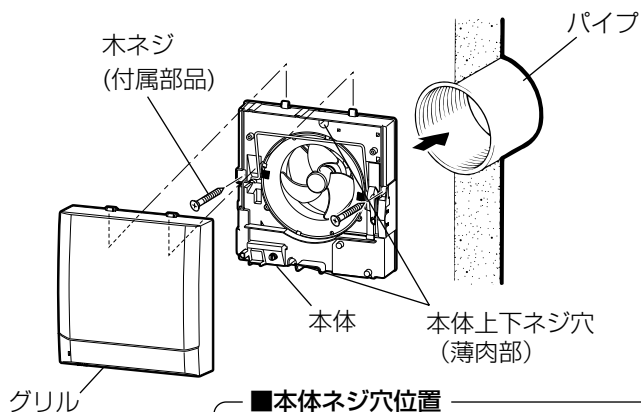
お願い

- 左右の取付用穴をご使用ください。必要に応じて本体上下ネジ穴（薄肉部）をご使用ください。
- 石膏ボードに取付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

天井取付けの場合

お願い

- V-12PEHD5を2.8m以上の高い天井に取付ける場合は、付属の木ネジ2本で本体を固定後、市販の木ネジを使用して本体の本体上下ネジ穴（薄肉部、上下2か所）を追加固定してください。



4.グリルを本体に取付ける。

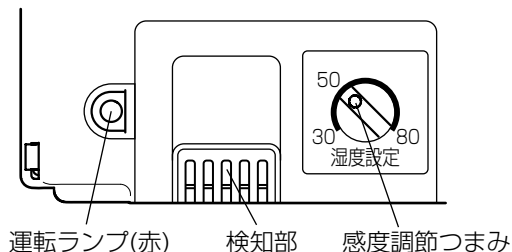
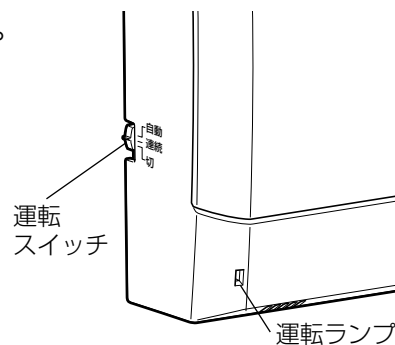
- ①アームを右図のように押し上げる。
 - 必ず電源を切った状態で行うこと。
- ②グリルの方向を間違えないよう本体に取付ける。
(1.本体からグリルをはずすの逆の手順でグリルを取付けてください)

5.以上の工事が終了した後、本体とグリルが確実に取付けられているか確認する。

試運転

取付工事が終わりましたら、下記の要領にて試運転を行ってください。

- 1.運転スイッチを「連続」にするとシャッターが開き換気扇が運転し、運転ランプ（赤）が点灯するか確認する。
- 2.運転スイッチを「切」にするとシャッターが閉じ換気扇が停止し、運転ランプ（赤）が消灯するか確認する。常時弱運転タイプに「切」スイッチはありません。壁スイッチなどで運転・停止の操作を行ってください。
- 3.グリルを取りはずし、運転スイッチを「自動」にして感度調節つまみを操作し、下記のことを確認する。



感度調節つまみ	停止タイプ	常時弱運転タイプ
左側に回す	アームが開き運転開始 運転ランプ（赤）点灯	強運転： 運転ランプ（赤）点灯
右側に回す	運転ランプ（赤）消灯	弱運転： 運転ランプ（赤）点灯

下記条件の場合は自動運転（強運転）または停止（弱運転）しません。
周囲湿度30%～80%RHの状態を再度確認してください。

運転（強運転）しない条件	停止（弱運転）しない条件
周囲湿度が30%RH(低)未満（目安）	周囲湿度が80%RH(高)以上（目安）

4.感度調節つまみを図の位置に調整し、アームを元の位置に戻してからグリルを本体に取付ける。

※自動運転時の停止状態について（停止タイプのみ）

検知部の周囲を部屋の状況に近づけるためにシャッターが閉じた状態でも低速運転します。
(シャッターが閉じているため換気はしません)

